

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	7	学校名	伊豆総合高等学校土肥分校	校長名	松浦 真一郎
------	---	-----	--------------	-----	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	教育相談機能の発展的継続により、生徒のこころの安定とからだの成長を図る。	教員が高等学校における特別支援教育の枠組みを理解するため、年間2回の校内研修を実施する。	年間2回の校内研修を実施することができ、教員の生徒理解を深めることができた。	A	教職員の特別支援教育に対する、さらなる理解の向上を目指した研修を計画していきたい。
		生徒の状況に合わせ、月1回程度で開催する。全職員で情報を共有する。生徒アンケートで「困ったときに相談できる人がいる」が80%以上を目指す。	教育相談連絡会を開催し、生徒情報の共有と、配慮が必要な生徒への対応について検討した。生徒アンケート 81%	A	特別な支援を必要とする生徒、中学時代まで不登校だった生徒、下宿生活をする生徒といった様々な課題を抱えた生徒が多く在籍している。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとも連携し、生徒の抱える不安を少しでも解消できるよう取り組んでいきたい
		予防的、開発的カウンセリングの継続により、「学校生活に満足している」生徒が70%以上を目指す。	生徒アンケート「満足している」81% 「先生は相談にのってくれる」83%	A	スクールカウンセラーの全校面談を実施し、予防的・開発的なカウンセリングの継続を図った。今後は心理的に不安定な生徒に対して、学校全体でサポートする体制づくり、生徒のセルフマネジメント力の向上を目指したい。
		校内巡視、校外巡視を通して、生徒の規範遵守への意識を高める。生徒アンケートで「学校や社会のルールやマナーを守って行動している」が95%以上、保護者アンケートで「土肥分校生は、挨拶や言葉遣い等がしっかりと出来ている」と地域アンケートで「本校生徒の服装・頭髪等は高校生らしいと思います。」が75%以上を目指す。	生徒アンケート「守っている」93% 保護者アンケート「出来ている」80% 地域アンケート「思っています」63%	B	トラブル防止のために学校のルールをわかりやすい形で改めて生徒や保護者へ周知する。

様式第3号

		新体力テスト8種目中4種目で、前年度(1年生は春)の記録を更新した生徒が60%以上を目指す。	記録を更新した生徒 58%	B	集団ごとに傾向が違うので、集団の特性に合った指導を検討する。
		1日3回の食事を摂り生活リズムを作る。朝食摂取率80%以上。定期的な生活実態調査で、実態を把握する。健康講座を通して健康への関心を高め、健康な生活を実践できるように継続的に指導する。毎日、6時間以上寝ている生徒80%以上。毎日、規則正しく生活している生徒70%以上を目指す。	朝食接種率76.9% 6時間寝ている生徒69% 規則正しく生活する71%	B	朝食を摂らないことや寝不足が習慣化している生徒に対して、学年部や家庭と協力し、全体や個別に指導する。
イ	生徒一人ひとりに対応した学習指導、進路指導体制の確立を図る。	生徒アンケートで「学校は、進路について計画的に指導している」が80%以上、「進路行事によって、将来の仕事への意識が高まった」が80%以上を目指す。	「計画的に指導している」 84% 「意識が高まった」 81%	B	1年次より、進路に関する関心を高めておくことが、進路実現に対する満足感に繋がっていく。外部講師の活用を積極的に行い、生徒の多様な進路希望にも対応できるように努めていきたい。
		生徒アンケートで「授業の内容がよくわかる」よくあてはまる”が30%以上(教務)生徒アンケート「授業の内容がよくわかる」の“当てはまる”が80%以上。	「よくあてはまる」 26% 「あてはまる」88%	B	あてはまる割合全体では80%を超えているため、生徒の実感や結果につながるような働きかけを検討する必要がある。
		生徒アンケートで「朝読書・朝学習の時間を有効に使っている」が80%以上	1年 76% 2年 69% 3年 85%	B	生徒は読書を中心とした活動に取り組んだ。落ち着いて一日を始めるための良い時間となった。(1年) 生徒それぞれが考えて取り組むことができた結果であり、考えられるように成長できた。(3年)

様式第3号

		生徒アンケートで「本校入学後、学力が向上した。」よくあてはまる”が40%以上(教務)生徒アンケートで「本校入学後、学力が向上した。」の“あてはまる”が60%以上。	よくあてはまる 36% あてはまる 64%	B	あてはまる全体でも回を重ねるごとに下がっている。観点別評価が生徒の学習改善につながるような工夫を検討する必要がある。
ウ	学校行事や体験学習の充実と精選を図り、自己肯定感、自己有用感を育む。	生徒アンケートで「学校行事に満足している」が80%以上を目指す。	満足している 1年 69% 2年 82% 3年 72%	B	よくあてはまるが前回より2上がった。卒業まで100%に近づけられるように働きかけていく。(3年)
		「本校入学後、様々な活動をするによって、少しずつ自分に自信が持てるようになった」が70%以上。	あてはまる 1年 76% 2年 69% 3年 73%	B	学校生活の計画に際して今後も意識していく必要がある。(教務) 学校生活の計画に際し、今後も意識していくべきと考える。(3年) 不登校経験者が過半数を超える中で欠席者が少ない状態で多様な体験をすることができた。(1年)
		芸術鑑賞会を通して、自己肯定感や社会性を育み、自己表現方法を身に着ける。生徒アンケート 「学校生活が楽しい」が80%以上。	あてはまる 81%	B	芸術鑑賞会を通して、地域の方たちにも土肥分校を訪れていただける機会となり、生徒の満足度も高かった。今後も継続していきたい
エ	家庭との連携強化を図る。	保護者アンケートにおいて「学校は保護者や地域との連携を深め、保護者や地域の理解を得ている。」が80%以上。	あてはまる 76%	B	PTA 関連の連絡はマチコミメールを活用して案内を出すように年度途中から変更した。今後も継続し、保護者への積極的な発信を行っていく。
		保護者アンケートで「学校はホームページや土肥高通信、学年だより、学級通信等で、生徒の様子をよく伝えている」70%以上	あてはまる 81%	A	学級通信や土肥高通信、学校案内で学校の魅力や生活の様子など積極的に発信した。
オ	地域、本校、異校種との連携、協働を推進する。	地域住民アンケートで「土肥高通信を読んだことがある」が80%以上。	読む 84%	A	声を掛け合って、全職員で協力して取り組むことで今年度は定期的に発行することができた。
		生徒アンケートで「2回以上地域の活動に参加した」または「本年度、ボランティア活動に参加した」が50%以上を目指す。	あてはまる 26%	B	ボランティア委員の参加率と意欲は昨年より良くなっている。 しかし、学校全体としての参加状況は目標に達することができなかった。校外活動への参加を促す必要がある。

様式第3号

		地域との連携、協働の回数を年間10回以上実施する。	協働回数5回	B	コロナが5類に移行しボランティアの数は増えたが、地域との協働の場は十分に持っていない。やり方を含めて検討する。
		防災訓練の防災学習の実施。防災に対する意識を高め、自助共助の精神を養う。生徒アンケートで「災害が起きた時の準備や心構えができています。」が80%以上を目指す。	あてはまる57%	B	ジュニア防災士の講座を実施したり、地域防災への参加を呼び掛けたりした。しかし、まだ十分に準備や心構えができていない生徒もいる。自身の防災対策や発災時の避難行動を発表するなど自分事として考える機会を検討する。
		本校との交流を通して価値観が広がった、自信が持てたと感じる生徒65%。	そう思う 91.7%	A	本校の文化祭に参加し、分校生の活動を十分に発表することができ、積極的に活動することができた。
カ	校務、学校行事等の見直し、精選を行い、勤務の環境を整える。	「休暇取得がしやすいと感じる職員」が100%を目指す。	休暇等取得依頼を気兼ねなく取得できた。	A	職員間のコミュニケーションを保ち、よりよい職場づくりをしてきたい。
		必要な情報は、必ず共有し、報告・連絡体制を確立し、学校施設における事故発生数を0件とする。	事務室と密に情報を交換し、報告・連絡体制を築くことができた。	A	平常時に限らず、災害が起きたときの対応なども、日頃から準備していきたい。
		職員安全衛生委員会を月1回開催し、職場環境の改善に努める。	毎月開催することができた。今年度初めて健康づくり講座を実施し、約8割の教員が参加した。	B	職場環境の改善や職員の心身の健康維持に直結する委員会の内容を計画したい。健康づくり講座は今後年一回開催し、職員の健康づくりをしていきたい。